

北海道教育委員会「S-TEAM教育推進事業」
令和5年度（2023年度）授業研究セミナー

道南・国語 実施報告



令和5年10月13日（金）、北海道伊達開来高等学校を会場に「主体的・対話的で深い学びの充実（指導と評価の一体化）」をテーマとして道南・国語の授業研究セミナーを開催しました。道南ブロックの各管内から18名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

実施状況

【研究授業】北海道伊達開来高等学校 小川 耕平 教諭

2年次学校設定科目「国語教養」の「書くこと」の単元において、「読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味するとともに、読み手からの助言などを踏まえて自分の文章の特徴や課題を捉え直したりする」ことを単元の指導目標に設定し、研究授業を行いました。冒頭、授業者は、学習課題「中学校1年生の時の自分に伝えたいことをキャッチフレーズにしてポスターで表現しよう」を提示しました。生徒は、授業者が用意した3種類のポスターから任意のポスターを1つ選択し、自分が伝えたいことをキャッチフレーズにして、ICT



端末上でポスターと合わせる活動を行いました。前半は、ICT端末に向かって真剣に考える姿が見られ、後半はクラスの友人と相互評価を行い、笑顔で交流する姿が見られました。



[学習指導案リンク](#)

QRコード

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、授業者1名、協力員3名（道立高校教諭）、道教委指導主事2名から成る「授業研究チーム」を編制し、オンラインで学習指導案検討会を3回（8/21、9/6、10/5）実施しました。学習指導案検討会では、授業者の授業プランをもとに、授業者の思いを形にするために協議を重ねていきました。

〈検討会で出された意見（例）〉

- ・生徒の興味を高めるためにポスター制作は有効だが、芸術科の授業ではないので、キャッチフレーズを考える活動に焦点化した方がいい。
- ・生徒に何となくキャッチフレーズを考えさせるのではなく、事前に指導した表現技法を活用させる流れで学習過程を組んだ方がいい。



【研究協議】「書くことにおける授業実施上の留意点」

研究授業実施後に、「書くことにおける授業実施上の留意点」を柱に研究協議を行いました。



(1) 授業者・協力員より

- 「総合的な探究の時間」における探究的な学習と、国語科における探究的な学習の違いが明確になった。
- 作成したキャッチフレーズの相互評価をクラスで行うよりも、他のクラスや先生方、外部の人に評価してもらおう方が、生徒のモチベーションを高めることができると助言をもらった。また、話すことや書くことの指導では、生徒に「伝える相手」を意識させることが大切だという視点を得ることができた。一人では考えが及ばないことも指摘してもらえるので、複数で指導案検討を行うことは有意義であると感じた。

(2) 参加者より

- ポスターにキャッチフレーズを付けるという実践は、語彙力の育成や表現技法の習得という観点からも効果的だと思った。
- 表現の授業実践の一つとして、アイデアが素晴らしかった。
- ICTが効果的に活用されており勉強になった。今回の実践で使用していたアプリは使用したことがないものだったので、試してみようと思った。

(3) 助言

[助言資料リンク](#)

QRコード



学習指導要領で求められている「生徒目線の授業づくり」を推進するために、

- ①学習の見通し、②学習課題（柱となる発問）を解決するための学習活動、③授業の振り返り、の3点を指導計画に位置付けることが肝要である。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 教科等横断、探究的な学習という観点から、国語科の授業を見直していきたいと思います。
- 国語科における表現の指導の授業、ICTの効果的な活用例として非常に参考になりました。
- 4月に異動して戸惑うことの多い毎日でしたが、在籍校と同じ規模の学校で意欲的な実践を見せていただき、非常に刺激になりました。
- 「書くこと」における評価方法に悩んでいました。生徒が、評価規準を意識して学習課題に取り組んでいたのを見ることができ、大変勉強になりました。

【アンケートの結果（一部）】

1 今回のセミナーで紹介した教材や指導法、研究授業、研究協議の内容は、あなたの授業において活用できますか。

- ・大いに活用できる 50.0%
- ・活用できる 50.0%

2 今回のセミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。

- ・大いに役立つ 50.0%
- ・役立つ 50.0%